

元会館建設委員会事務局長 橋本左内さん亡くなる

ノーモア・ヒバクシャ会館の建設委員会事務局長だった橋本左内さんが去る 10 月 17 日、心不全のため 89 歳でお亡くなりになりました。娘さんや息子さんたちのいる札幌に來たいとおっしゃっていた矢先のことでした。

橋本左内さんは、1934 年石川県に生まれ、1959 年同志社大学大学院神学研究科を修了しました。北光教会、千歳栄光教会を経て福音共同体として独立。その後北星男子高校・北星新札幌高校（現北星大附属高校）の宗教科の教諭をされました。

1962 年に仲間と北海道キリスト者平和の会を結成、恵庭・長沼事件をはじめ様々な平和運



動にかかりました。ノーモア・ヒバクシャ会館建設運動はその中心のお仕事でした。

会館が竣工した翌年の 1992 年に東京に出て牧師として活動、日本宗教者平和協議会事務局長を務めました。

数多くの著書も残しました。『平和憲法を守るキリスト者恵庭事件における証し』『人の子イエス その人間解放の生涯』『牧師が読む般若心経 イエス・親鸞・マルクスに共通点を見る』『国民学校一年生 ある少国民の戦中・戦後』『3・11 災害歌集』等々。謹んでご冥福をお祈りします。

橋本左内さんを偲んで

鳴海典子

長期間にわたりノーモア・ヒバクシャ会館建設に奮闘された橋本先生の「死」を心よりお悔やみ申し上げます。

先生との最初の出会いは 1978 年室蘭時代でした。被爆者運動の話をされ、静かに出席され静かに出てゆかれました。

81 年に私は夫の転勤で札幌に出てきて、先生が会館



原爆死没者追悼会

建設に全力で当たっておられるお姿を目の当たりにしました。時には、被爆者との間で意見が合わず、何度も何度も話し合いを重ねておられました。その時先生は感動的な一言を語られました。「信じると言うことは相手への期待ではない。自分への決意なのですよ。」と。私は心が震えました。また何事も越智晴子さんに伝えて話し合いを重ねている時、とてもやさしく伝えておられたお姿が忘れられません。常にノーモア・ヒバクシャ会館建設の先頭に立って行動されました。1991 年 12 月 23 日に落成した時にも、静かに出席され静かに帰られたことが、私は今も忘

れられません。橋本先生、どうぞ安らかにお休みくださいませ。永い間ありがとうございました。

橋本左内さん！

今後も魂で共に！

齋藤 哲

橋本左内先生は、私にとって恩師であり、特別な存在だ。しかし先生は「さん」と呼んだ方がきつと喜ぶだろう。どんな場合も相手を一個の人間として見るからだ。だからここでは橋本さんと書かせていただく。

橋本さんの訃報を聞いた時、私には悲しさも驚きも無かった。な



ヒバクシャ会館訪問 2018

ぜだろうか？

私にとつての最大の思い出は、高校時代に平和ゼミナール活動の一環で、一緒に広島に行き原爆瓦を採取したことである。ヒバクシャ会館の展示品の中に、今でも「北海道から行った高校生たちが元安川で採取した」と紹介されている、高温で表面のガラス成分が浮き出た瓦の破片や溶けたガラス片がある。そこには 36 年前の私と橋本さんが採取した物も含まれている。

「安らかに眠り下さい」と言いたいところだが、橋本さんのことだから、あの世に行っても平和と民主主義のために運動を続けるだろう。分かった！悲しさも驚きも無いのは、物理的に存在しなくなっても橋本さんは私の魂の中で生き続けているからだ！

だから私は「今後魂で繋がりに共に運動を続けましょう！」と伝えたいと思う。

今後の予定

12 月～3 月

月々水、週 3 日の開館です。

会館の年末年始

12 月 27 日～1 月 8 日まで
休館となります。